

先月の人気図書

- 1位 有川浩『図書館戦争』
- 2位 又吉直樹『火花』
- 3位 松岡圭祐『探偵の探偵』
- 4位 吉田秋生『海街diary』
- 5位 細田守『バケモノの子』

二度目の映画化
で人気再燃!

有川浩『図書館戦争』
メディアワークス、2006



表現の自由を侵す国家機関「メディア不良化委員会」に對抗し、地方行政機関の「図書館」が武装して「図書館戦争」を始める！迫力ある戦闘シーンは読みごたえが、合間には隊員たちの恋愛模様も描かれていきます。ハラハラドキドキする4部作シリーズ。

図書委員さんに好きな本を
教えてもらいました
今回の担当は3-2渡邊さん

私の好きな作家



米澤穂信

1971年生まれ。2001年のデビュー作『氷菓』は2012年のアニメ化により若者に人気を博し、〈古典部〉シリーズは一躍有名になった。おもな著作に『インシテミル』『折れた竜骨』『満願』などがある。

〈古典部〉シリーズ

文化系クラブの活動が盛んな神山高校の「古典部」に入部した1年生の折木奉太郎は、3名の部員とともに「古典部」にまつわる謎を解いていきます。ヒロイン・千反田えるの口癖「**わたし、気になります!**」が謎解き開始の合図です。



1. 氷菓

古典部の文集はなぜ「氷菓」という題なのか？「氷菓」と名付けた千反田の伯父は何者なのか？幼いえるが伯父の前で泣いたのは何故か？それらは全て33年前に神山高校で起こった事件と関係があるらしい。奉太郎が古典部の仲間と解き明かしていくさまがワクワクします。

2. 愚者のエンドロール



文化祭に向けて2年F組が制作した未完成の映画。その結末と真意を奉太郎たちが探します。

3. クドリヤフカの順番



文化祭で販売する『氷菓』を作りすぎてしまい、完売するために部員が奔走します。

4. 遠まわりする雑



古典部の1年間を描いた短編集。「手作りチョコレート事件」は東海大学入試で採用されました。

5. ふたりの距離の概算



春になり、ある新入生が入部を頑なに拒否しているのは何故？その真意を奉太郎が推理します。

個人的に1番好き

野口健さんの 著書を購入しました

今年の成道会では、登山家の野口健さんをお招きして講演していただきます。図書館では野口さんの著作を揃えました。そのうち3冊を紹介します。

『世界遺産に連れて 富士山は泣いている』



富士山の文化遺産登録は何が問題なのか？清掃登山を続けてきた野口さんが分かりやすく解説してくれています。

『それでも僕は「現場」に行く』



登山での「み拾い」、旧日本兵の遺骨収集、センカクモグラの保護活動……なぜ登山を続けるのか、野口さんの本音が綴られています。

『野口健が見た世界 INTO the WORLD』



登山の醍醐味は壮大な自然を感じられることです。しかし足元を見るとそこは生と死が隣合わせに存在しています。死者の骨、つぶれた村、アフリカのスラム街、東日本大震災。野口さんが撮った世界の生々しさに思わず圧倒される写真集です。

「乗り物」特集 やっています

図書館には電車や自動車、航空機など「乗り物の本」がたくさんあります。「乗り物の本」と一口に言っても、生産技術の本、列車旅行ガイド、乗り物の写真集、創業者の伝記、小説など種類は様々。あなたの好きな乗り物は何ですか？

